



目次	目次
図書館と事務組織 1	医学部分館からのお知らせ 7
学生にすすめるこの一冊 3	農学部分館長交替 7
電子ジャーナルの充実に向けた 取り組みについて 4	デ-タベ-ス等マニュアル作成 8
平成16年度大学図書館職員 長期研修報告 5	附属図書館委員会 9
電子図書館システムによる貴重資料 の公開 6	図書館日誌 9

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

図 書 館 と 事 務 組 織

淵 上 光 明

本学附属図書館の事務組織は、事務長制のもとに発足したのが昭和25年(1950)、部課長制が導入されたのが昭和56年(1981)、それから23年後の平成16年11月16日付けで事務機構改革を行い、附属図書館事務部から学術情報部に改組され、主として、学術情報部の学術情報課と図書館サ-ビス課が担当することになった。(図-1「愛媛大学図書館組織概念図」参照)

図書館はこれまでと同様に、大学の教育・研究活動を支援する大学共有の附属施設として設置されていることは言うまでもないことだが、これからは、学内外との連携と情報発信の拠点として、また、地域社会に開かれた生涯学習施設としても図書館の役割が効率的に発揮できるようこれまでの組織を全面的に見直し、さらに、インタ-ネット時代の学術情報部門としての組織整備を図る必要があった。

そのためには、現行組織の効率化、スリム

化及び組織の再編等による機能の充実と人員の捻出が求められること。現在の事務組織及び職員の専門性を強化するとともに、柔軟で機動性のある組織に改編する必要があること。業務の繁閑に応じた相互の支援体制がとれる弾力の利く組織とすること。将来、適時、適切に事務組織を見直すに当たって、効率よく行える組織とすることなどを事務機構改革の目的として検討してきた。

具体的には、現行の附属図書館事務部(情報管理課、情報サ-ビス課)を改組し、新たに学術情報部(学術情報課、図書館サ-ビス課、情報システム課)を立ち上げ、係長制度を廃止し、課内において、チ-ム制を導入することになった。

専門員以下の職制は、専門員は専門役に、係長はチ-ムリ-ダ-に、主任はサブリ-ダ-に、係員は部員にそれぞれ改めた。チ-ム制を導入した1つの理由は、チ-ムで多くの業務を経験することにより、職員の能力が向

上するとともに、業務遂行の機動性を高められることにある。また、担当者不在による業務の停滞が減少し、配置換え時の引継ぎが容易になること等が挙げられる。

部長が、チームを編成し、役割分担を決め、必要に応じて、チームを再編成することができ、1チームには複数のチームリーダーを配置することができることになった。

課長は、課の業務に責任を有し、各チームの業務をとりまとめ、重要な業務について各チームと一体的に業務を遂行するなど、課の事務の先頭に立つとともに、課の職員を指揮、監督する。

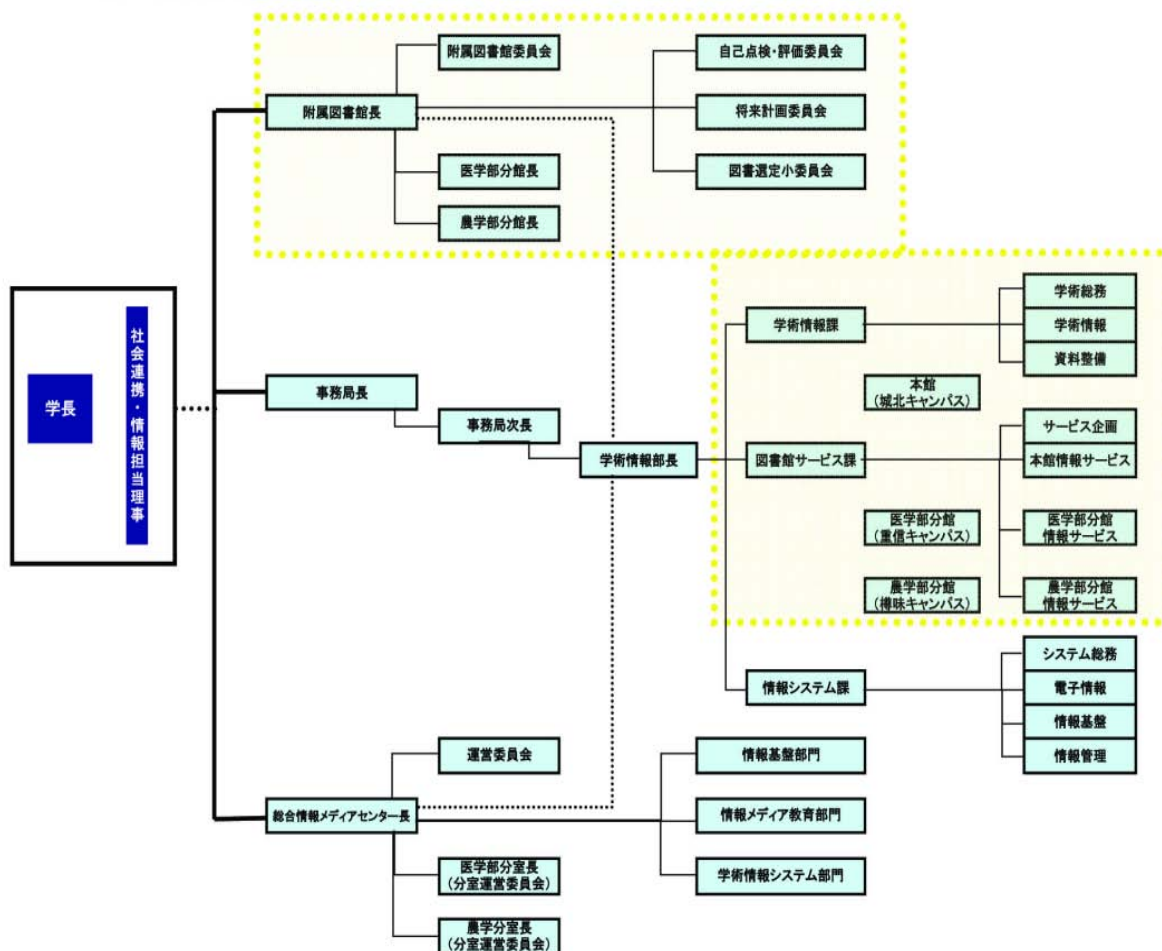
部長及び課長は、業務の繁閑に応じたチーム間又は課相互の支援体制がとれるよう努めることとし、また、必要に応じて、特定の問題について、複数のチームにまたがるプロジェクト・グループを編成することができることになった。

専門役は、高度な専門的業務を担当することになるが、担当業務は固定化せず、部長及び当該課長の指揮命令により、弾力的に業務を遂行することとした。

法人化後の図書館が、限られた予算・体制の中で図書館の円滑な管理運営、社会及び利用者のニーズに伴ったサービスの充実を図っていくためには、人材・資源の有効活用を図り、社会情勢の変化及び利用者の動向等を迅速につかむなど、現実に即応した組織が必要であり、図書館の環境、図書館業務の内容・処理方法は変化に伴って変わって行かなくてはならない。さらに、図書館職員の人材育成、資源の最適な整備とデータの一元管理、学内の情報関連部門との連携・協力、教員との協力関係などに取り組み、大学全体の情報化を推進し、学術情報サービスの高度化を図るなど、法人化後の大学運営において、図書館がいかに貢献できるかが重要である。

(ふちがみ みつあき 学術情報部長)

図1「愛媛大学附属図書館組織概念図」



学生にすすめるこの一冊

日原冬生 先生(理学部・生物地球圏科学)

『反社会学講座』

パオロ・マッツアリ - ノ著

イ・ストプレス 2004

現在の日本社会のさまざまな社会現象がマスコミによって報道される。報道は事実を伝えるだけでなく、一定の解釈や説明がなされるのが普通である。それらの報道によって我々の「常識的な知識」が蓄積される。著者は、紋切り型の常識に疑問をもって『反常識の知』をもつことを奨めている。題材はフリ - タ - の問題、学力低下の問題、少子化論争など身近なものを取り上げている。気楽に読んで楽しめる本である。

金子修 先生(医学部・寄生病原体学)

1) 『スニ - カ - 』 (ハヤカワ文庫)

ジョ - ジ・R・R・マ - ティン著

早川書房 1990

2) 『サンドキングズ』 (ハヤカワ文庫)

ジョ - ジ・R・R・マ - ティン著

早川書房 1984

僕は海外 SF 読みです。SF 読みの学生向けに、マニアックなところでジョ - ジ・R・R・マ - ティン著『皮剥ぎ人』(『スニ - カ - 』に収録)と『<蛆の館>にて』(『サンドキングズ』に収録)を挙げておきましょう。平井和正の“狼男”シリ - ズが好きな方は、スタイリッシュな『皮剥ぎ人』に、マ - ヴィン・ピ - クの“ゴ - メンガ - スト”が好きな方は、『<蛆の館>にて』に心がうち震えるでしょう。

3) 『青春を山にかけて』 (文春文庫)

植村直巳著

4) 『ブッダのことば』 (岩波文庫)

5) 『バガヴァッド・ギ - タ - 』 (岩波文庫)

6) 『孫子』 (岩波文庫)

7) 『日本語の作文技術』 (朝日文庫)

本多勝一著

8) “Elements of Style” (ALLYN AND BACON)

William Strunk Jr. & E. B. White 著

上記とは別に、大学時代は、冒険家の植村

直巳著『青春を山にかけて』, 原始仏教を感じる『ブッダのことば』および古代インド哲学の書『バガヴァッド・ギ - タ - 』に影響を受け、今に至ります。プロの研究者として、研究戦略の構築に『孫子』を、論文作製には本多勝一著『日本語の作文技術』と William Strunk JR. 著『The Elements of Style』を座右の書にしています。これらの書を学生時代に読むことで、今後の人生が大きく狂わ・・・ではなく、変わるかもしれません。

羽藤英二 先生(工学部・環境建設工学科)

『空の色』

HABU 著

ピエ・ブックス 2000

学生時代、アジアや欧米の国々を無銭旅行していた頃があった。安宿やバスディ - ポはそういう連中の溜まり場で、「あの町は治安は悪いけど、1ヶ月\$3で過ごせるぞ」とかそういう話をきき、ぶらぶらしていた。

そういう場で、中には大変すぐれた感性をもつ人達に出会ったが、大半はただアジアに行ってみただけの人々が多かった。話すことはただのつまらない一方的な自慢話であることが多く、話のすべてがきわめて退屈であった。見ること自体には何の意味もない、のだと思った。見て何を考えたかが重要なだろう。考えるには、それなりの教養がいる。大学で講義を受けることはすべてではないけれど、一定の勉強をしたという物差しにはなる。いろいろな国に行くなら勉強してから行けと言いたい。間違っても行っただけで人生が変わったりしない。世界には解決しなきゃいけない問題があるし、紛争の中、貧困に喘いでる人々もいる。そういう問題を自分の問題に置き換えて、何かを感じ行動に移せる人は少ない。何も考えない物見遊山の自分探しなら炬燵の中でテレビを見ていれば十分だろう。ただ、不思議なことだが、あの頃眺めた、地平と空の強烈な景色が記憶に残っている。学生時代、何を考えたか、何を思ったか、そういうことは自分が死ぬ前にすべてアタマから抜け落ちるのだろうが、あの日々に見た空や

土塊の匂いは忘れないかもしれない,と思う。
様々な空の色がこの本におさめられている。
プロ・クンヒルの赤土の向こうの真っ赤な夕

焼けや,太平洋上の飛行機から眺めた夜明け
の光が雲に色をつけていくさま,そういう空
の色の,どこかすべてが懐かしい。

電子ジャーナルの充実に向けた取組について

五味 照明

1. はじめに

今年4月の国立大学の法人化に伴い,愛媛大学においても中期目標・中期計画が策定され,併せて図書館の平成16年度の年度計画が決まりました。大学全体の中期計画において,「研究に必要な設備等の活用・整備に関する具体的方策」として,「学術文献(電子ジャーナルを含む)学術資料を充実するための全学体制を確立する。」との事項が盛り込まれております。また,図書館の平成16年度の年度計画では「電子ジャーナルの整備を行うとともに,平成17年度以降の整備方針を策定する。」こととなっており,電子ジャーナルの整備は,極めて重要な図書館の事業として位置付けられ,特に平成17年度以降の整備方針を明確にすることが求められております。

2. 電子ジャーナル導入の経緯

電子ジャーナルの特徴は,従来冊子体で公表されていた学術論文等が,インターネットを介して提供され,学内のパソコンから,いつでも,どこでも,誰でもが利用可能となり,その速報性,充実した検索・リンク機能等において,極めて優れたツールであることです。図書館では,平成12年度から,図書館委員会を中心に電子ジャーナルの導入について検討を開始し,平成14年度からは,その経費の一部について学内共通経費が認められ,併せて文部科学省からも電子ジャーナル導入経費が措置されました。

このことにより,平成14年度から,電子ジャーナルの本格的な導入が開始され,平成15年度からは海外5大出版社(Elsevier, Wiley, Springer, Kluwer, Blackwell)及びJSTORの電子ジャーナルについて,コレクションを充実し,大幅なタイトル数の拡大が図られました。しかしながら,各学科・研究室における外国雑誌の冊子体購読の維持が前提条件であるため,やむを得ない事情で冊子体

購読が中止されると,電子ジャーナルの契約は極めて不安定な状況となり,その都度関連部局・研究室の御支援により継続してきたところです。

この間,全文データの利用件数は,導入タイトル数を拡充したことなどにより,平成15年度は年間約14万件となり前年度と比べ約2倍に増加するなど,本学の学術情報基盤の一つとして必要不可欠なものとなっております。

3. 平成17年度以降の電子ジャーナルの充実に向けて

平成15年度以降に飛躍的に増加した利用状況も踏まえ,平成17年度以降当面3年間,海外5大出版社及びJSTORについて,電子ジャーナル中心(電子ジャーナル・オンリー契約)の整備を行うとの基本方針が,平成15年12月開催の図書館委員会で承認されました。このことは,平成16年5月・10月開催の同委員会でも再度確認されております。併せて大学全体の基本方針として,平成16年10月開催の財務計画役員会でも御承認をいただきました。

従来の学科・研究室の冊子体購読に依存した電子ジャーナルの整備から,大学として電子ジャーナルを整備するとの明確な基本方針が示されたことにより,電子ジャーナルの安定的な供給が図れるように,必要な財源の確保の枠組みについても財務計画役員会で検討されております。

平成17年度に導入するタイトル数は4,158タイトルとなる予定です。電子ジャーナルの優れた機能を活用し,学術情報を迅速に入手するためのツールとして広く学内の教職員,学生・院生の皆様に御利用していただければと存じます。

(ごみ てるあき 学術情報課長)

平成17年度整備予定の電子ジャーナル一覧

電子ジャーナル名	利用可能なタイトル数等	
	(現在)平成16年度	平成17年度以降
(1) Elsevier Science Direct フル・データベース	1,500 全分野	1,800 全分野
(2) Wiley - InterScience	362 全分野	360 全分野
(3) Springer - LINK	440 全分野	498 全分野
(4) Kluwer Online	645 全分野	640 全分野
(5) Blackwell - Synergy	666 全分野	697 全分野
(6) JSTOR	117 人文社会系	163 人文社会系
計	3,730	4,158

平成16年度大学図書館職員長期研修報告

福居みのり

7月5日から16日の2週間、文部科学省と筑波大学共催の大学図書館職員長期研修に参加させていただきました。この研修の目的は、中堅職員に学術情報の最新の知識を与え、再教育をし、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービスを充実させることとなっています。

今年の夏は記録的な猛暑となりました。大変な暑さではありましたが、会場となった東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターは緑に囲まれた環境の良い所で気持ちよく研修を受けることができました。

参加者は北海道から鹿児島までの全国各地から42名、そのうち国立大学関係は35名でした。地方からの参加者はほとんどがオリンピックセンターの中に宿泊していて、講義を受けるのも食事をするのも一緒という合宿のような密度の濃い時間を過ごしました。

研修は講義が中心でその内容は下記のようなものでした。

1. 大学図書館の管理・運営
2. 大学改革と図書館
3. 電子図書館機能の整備とその推進
4. 学術情報の流通
5. 多様化する情報サービス

詳細は(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/>)

choken/)

多少詰め込みすぎではと思われるほど毎日講義がぎっしり詰まっていて、頭の中で整理する暇もなく次の講義を受けるという状態でした。

国立大学が独立行政法人となって最初の年ということもあり、「2. 大学改革と図書館」の中に含まれる国立大学法人についての講義は受講生の関心の大変高いものでした。また外国雑誌の価格高騰については多くの講師の方々が繰り返して触れられ、大変な問題であるとの認識を新たにさせられました。電子ジャーナル・電子図書館関係の話題も多く、これからの図書館の向かう方向性が見えるような気がしました。図書館に足を運ぶことなく情報を入手できるという利点のある電子ジャーナル・電子図書館の整備をするのが重要課題であるのはもちろんのこと、それらを使ってもらうためには広報や利用者の教育も必要であるということを痛感しました。

その他にグループ討議と施設の見学がありました。

グループ討議は「大学図書館運営の在り方」と「学術情報の収集・発信の企画」という二つのテーマで活発に議論がかわされました。大学図書館が生き残っていくためには、

企画力が求められていると感じました。

施設の見学は国立国会図書館で、書庫からの資料の出納の様子や古い資料の修復等を見せていただきました。今年から研修期間が3週間から2週間に短縮されたこともあって、施設の見学は昨年と比べると大幅に減って国会図書館1カ所となってしまいました。

せっかくの機会なのにと残念がっていたところ、受講生の方のご厚意で一橋大学と明治大学の図書館と国立情報学研究所を見学させていただくことができました。このように他機関の職員の方とのつながりもでき、そういう意味でも大変価値のある研修となりました。研修後にメ - リングリストが立ち上がり、それぞれの職場での困ったことを相談するなど情報交換に活用させていただいています。

これからも心強い限りです。

日常の業務を離れてこれだけ集中して勉強するという機会はなかなかありません。職場に戻ってからしようと思っていた研修で学んだことの復習は日々の仕事に追われてできないままですが、この研修で学んだことを活かすことができればと思っています。これからも研鑽を重ねていかなければならないとの思いを強くしています。

最後になりましたがこの研修でお世話になりました文部科学省と筑波大学の方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。また忙しい中、快く研修に送り出してくださった職場の皆様にもお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。(ふくい みのり 学術情報課資料整備チ - ム)



電子図書館システムによる貴重資料の公開

松本 秀毅

生涯学習に関する全国的な祭典である「全国生涯学習フェスティバル(愛称:まなびピア)」が、今年、愛媛県で開催されました。

愛媛大学は、地域における大学として交流を深めるため、10月9日(土)から11日(月)の3日間、第16回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア愛媛2004」の参加事業として、約40もの企画を立ち上げ「まなびピア in 愛媛大学」を開催しました。

附属図書館も、大学が企画したイベントの一つとして「電子図書館システムによる貴重資料の公開」をテーマに、郷土資料などのデジタルコンテンツ化とインターネットでの情報発信を紹介、併せて貴重資料を公開し、来

館者には、オリジナル作成の電子図書館のパンフレットとしおりを配りました。台風の影響にもかかわらず、多くの方が来館され、コンテンツやキャプションなどの付加価値により利用形態が多様化されたデジタルア - カイブや、日頃目にすることができない原貴重資料を熱心に見ていました。

市民から、資料だけでなく、学外利用者の利用方法についての質問などもあり、地域住民の大学に対する期待の大きさや大学図書館に対する関心の強さが感じられ、大学の社会貢献、地域連携のあり方として、大学図書館による公開事業及び広報活動など、益々拡充の必要性を痛感しました。

(まつもと ひでき 学術情報課専門役)



【パンフレットとしおり】



【会場風景】

医学部分館からのお知らせ

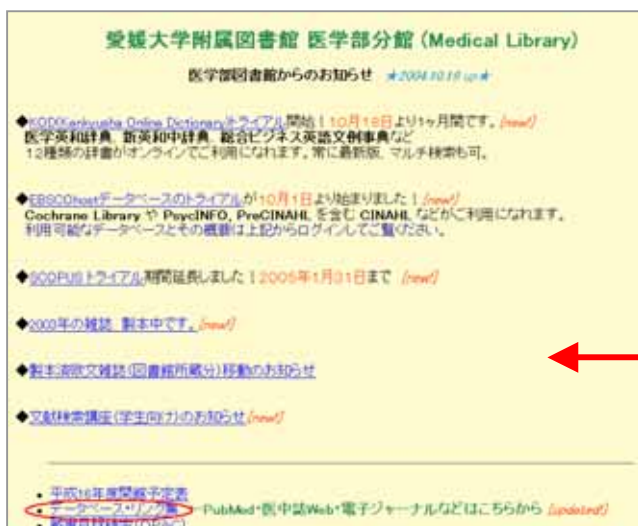
【ホ - ムペ - ジをご覧ください】

医学部分館のホ - ムペ - ジが新しくなりました。毎月1回を目途に更新して、医学部分館利用者の皆様への広報に努めています。トップペ - ジ上部には現在のお知らせを、

下部にはデ - タベ - ス・リンク集や分館備え付け資料の説明、分館の概要などを掲載しています。デ - タベ - ス・リンク集のペ - ジには医学・看護学関連のデ - タベ - スを始め、電子ジャーナルのプラットフォーム、学術雑誌投稿規定集へのリンクなども設けております。ぜひご活用ください。

医学部分館の URL は以下のとおりです。

<<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/IGAKU/>>



図書館ホ - ムペ - ジ左下の「利用案内・概要」から「医学部分館」をクリックしても表示されます。

【学生向け文献検索講座のお知らせ】

医学部分館では、医学科・看護学科3 - 4年生を対象に文献検索のガイダンスを実施いたします。

References 書誌の見方から医中誌・PubMedの基本的な使い方、文献の入手方法までを50分程度で説明するものです。平日の

10:00 ~ 18:00 の間でいつでも受け付けております。文献入手に必要なポイントをつかんで、スムーズな検索方法を身につけませんか。

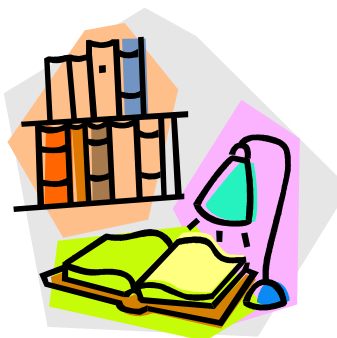
詳しくはホ - ムペ - ジのお知らせをご覧ください。詳しくはホ - ムペ - ジのお知らせをご覧ください。

農学部分館長交替

11月1日、橘燦郎(たちばな さんろう)教授(応用生命化学専門教育コ - ス・森林資源利用化学)が附属図書館農学部分館長に就任されました。

任期は平成18年10月31日までです。今後のご指導をよろしく願います。

また、これまで2期4年間ご指導をいただきました安部前分館長に、厚く御礼申し上げます。

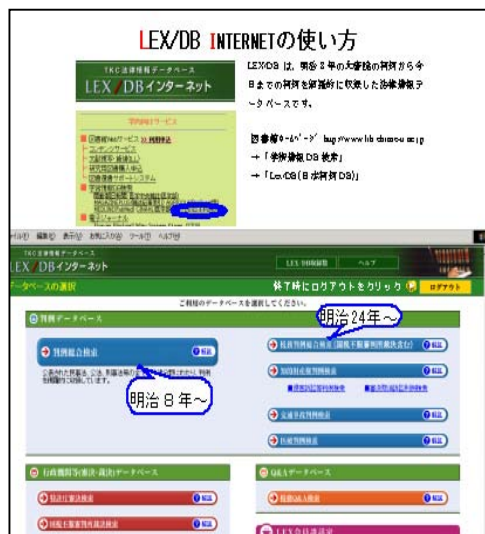


デ - タベ - ス等のマニュアル作成

本館では、利用者用パソコン横にデ - タベ - ス等の使い方マニュアルを備え付けました。これらを参考にいただき、より一層のデ - タベ - ス等の利用をお願いします。なお、分からないことがありましたらレファレンス・デスクの職員にお気軽にお尋ねください。

図書館ホームページ・オンラインマニュアル集にも掲載しておりますので、ご利用ください。

LEX/DB (日本判例デ - タベ - ス)



MAGAZINEPLUS (雑誌記事索引)



JIS (日本工業規格)



ERIC (教育学文献デ - タベ - ス)



WebCat Plus (図書デ - タベ - ス)



附属図書館委員会

平成16年度第2回附属図書館委員会

日時 平成16年10月1日(金)

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 第51回国立大学図書館協会総会について
2. 平成16年度愛媛地区大学図書館協議会総会について
3. 平成17年度電子ジャーナルの整備について
4. 平成17年度外国雑誌及び国内雑誌の予約状況について
5. 学生用図書の本架の整備について
6. 図書館利用ガイダンスの実施状況について
7. 図書館報の発行について
8. 事務機構改革について
9. まなびピア愛媛2004について
10. 分館近況報告
11. その他

[協議事項]

1. 図書館資料の除籍及び処分に関する内規(案)について
2. 図書館システムのリプレースについて
3. その他



図書館日誌(会議, 研修)

- 8月25日 平成16年度西日本図書館等職員
~27日 著作権実務講習会(九州大)
土出係員出席
- 8月25日 平成16年度目録システム地域講
~27日 習会(山口大)宮部係員講師参加
- 9月9日 社会貢献事業WG(まなびピア)
- 9月13日 総合情報処理システム更新WG
- 9月22日 総合情報処理システム更新WG
(第1回図書館システム更新WG)
- 10月1日 平成16年度第2回図書館委員会
- 10月7日 国立大学図書館協会中国四国地区
協会実務者会議(鳥取大)
松本係長出席
- 10月9日 まなびピア愛媛2004(電子図書館
~11日 システムによる貴重資料の公開)
- 10月14日 館報編集委員会
(図書館だより76号)
- 10月14日 情報リテラシーWG
- 10月15日 シンポジウム「学術出版とコミ
ュニケーション活動」(広島大)
福居係員出席
- 10月18日 第45回中国四国地区大学図書館
研究集会(岡山大)富田係長出席
- 10月25日 総合情報処理システム更新WG
(第2回図書館システム更新WG)
- 11月16日 平成16年度第2回医学部分館
図書・情報委員会
- 11月22日 総合情報処理システム更新WG
(第3回図書館システム更新WG)
- 11月26日 平成16年度中国四国地区大学図
書館所管部課長会議(岡山大学)
淵上部長・河野課長出席
- 11月29日 第17回国立大学図書館協会シン
~30日 ポジウム(西地区)森川TL出席

* お知らせ

本号から「図書館だより」は、図書館利用に関する情報等を迅速に提供するため
冊子からWeb版に変更になりました。

愛媛大学附属図書館「図書館だより」第76号

編集：館報編集委員会

〒790-8577 松山市文京町3番

2004年12月1日発行

発行：愛媛大学附属図書館

TEL(089)927-8845